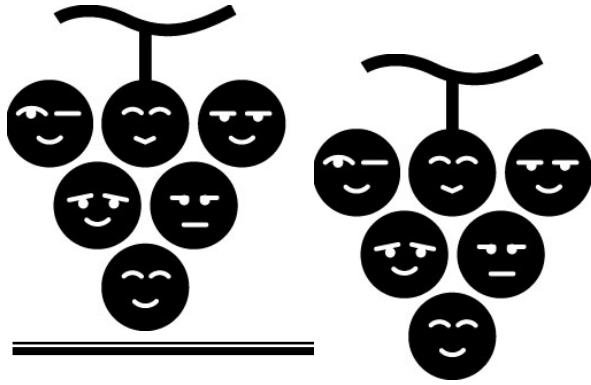


組合活動啓発のため、組合員以外の皆様にもお届けしています。



マスカット

2012年度 第3号 (2012.10.5 発行)

2012年岡山大学教育学部職員組合の活動方針

(1) はじめに



私たち教育学部職員組合は、「従来から政治色もなく、けたたましさもなく、学部や大学の執行部とは良好な関係を保ちつつ主張すべきことは主張し、教職員同士のつながりをつけるための様々なイベントを企画運営しながら、すべての教職員が働きやすい環境づくりに努める」、そのような集団だったと思います。こうした「おおらかさ」を継承しつつ、国立大学法人が直面している昨今の厳しい状況を見据えながら、今年度は、「**普段はおとなしく、おおらかだが、いざとなったら数千本の針を立てて自分たちの生活を守る…ハリネズミ教育学部職員集団**」の基礎づくりに努めます。

そのために、教職員の思いを聴き取り、それらをつなげながら、いざとなったときに力を発揮できる組合づくりを地道に進めていきます。

今年度の執行委員会では、1つのテーマを掲げ、そのテーマの下に活動に意味 (meaning) を与え、まとまり (cohesiveness) を持たせることにしました。そのテーマとは、「**健康・スポーツ**」です。今年の執行委員は、オリンピックのメダリストである梶谷信之委員長を筆頭に、その委員長を、健康やスポーツに対する思いの強いメンバー5名が取り巻くといった布陣です。「健康・スポーツ」はこのメンバーならではのテーマです。このテーマのもとに教職員がつながる、教職員の元気が出ることを企画したいと思います。その象徴として、

教育学部内の空きスペースに健康機器を設置する。教職員が、わずかな時間を利用して、仲間と気軽に健康づくりに取り組めるような空間を用意する。

に取り組めます。

また、すでに教育学部の教職員が企画・運営している「健康・スポーツ」にまつわる活動を紹介し、その利用を促進したいと考えています。右の写真は、梶谷委員長が夏季休業期間中に企画したトランポリン講習会の様子です。参加された方はいずれも教育学部職員です。このように教育学部の教職員が気軽に参加できるイベントの存在を、恐らく多くの方はご存じないのではないのでしょうか。このような既存の活動を掘り起こして紹介したり、新たにつくりだしたりして、「仕事の合間のわずかな時間を利用して、会話をかわし、身体を動かしながら健康づくりに取り組める」、そのような環境づくりに努めます。

[HP では不掲載]

(2) 活動方針

①大学の自治の担い手として活動する

学長及び理事会の権限が強化される中、教職員が大学運営に関する情報に触れ、発言し、参加する機会が失われています。連合体と連携して、大学運営に関する情報を収集し、それを教職員にわかりやすく伝えることにより、教職員が情報に触れる機会を可能な限り多くします。連合体によるアンケート調査への協力を教職員に地道に呼びかけたり、さまざまなチャンネルを利用して日ごろから大学の運営に対する教職員の声を聞いたりし、必要であれば連合体での議題に取り上げてもらうようにすることで、教職員の「発言」機会を増やしていきます。執行委員として、連合体の団体交渉や学長との懇談会には積極的に参加します。

②労働条件の改善

4月より人事院勧告に従った賃下げ(40歳代以上0.23%)が行われ、さらに6月より臨時特例法に準拠した賃下げが実施されました。賃下げの代替措置を行うことはすでに大学当局から確約が得られていますが、どのような措置をとるかについては、大学当局との交渉を今後も続けていかなければなりません。賃下げに見合った代替措置が行われるよう、連合体を通して教育学部単組としての意見を積極的に伝えます。

休日出勤の代休を指定された期間内にとるように言われても、日常の業務が忙しいため、代休をとれる日がなく、書類上は代休でも実際には出勤している事例が多く見受けられます。代休がとれる期間を延長する、あるいは、代休が取れない場合には休日勤務手当の支給が求められるようにならないか、連合体と連携して調査します。

③組合の組織拡大・組織力の強化

現在、教育学部では全教員の過半数が組合員です。しかし、近年は、組合員の退職者・退会者数が新任で組合に加入する教員数を上回る傾向にあります。法人化後、労働条件に関しては労使交渉の中でそれぞれの大学が主体的に決めていくこととなりましたが、労使交渉が実質的な意味を持つためには、数の力が必要です。組合活動による成果を地道に確実に積み上げることが第一ですが、組合活動による教職員への恩恵は目に見えにくい部分も多いので、広報(マスカット)を通して組合活動による恩恵の可視化に努めます。

④広報活動の充実

連合体事務局にカラー印刷機が設置されました。組合員の場合「印刷紙を持ち込めばフリーで利用できる」といった特典もついています。カラー印刷、カラー写真の掲載により、「マスカット」の魅力を高めます。

⑤文化・レクリエーション活動の充実

互いの顔がわかる、何かあったときに助け合える、居心地のよさを感じることができる、そうした職場が今こそ求められています。「～のような活動であれば、仕事の忙しさに関係なく参加してみたい」「～のような活動であれば、家族を誘って参加してみたい」と思えるような大小様々なイベントの企画に努め、教職員同士のつながりづくりに貢献します。「健康・スポーツ」がテーマですが、芸術や歴史、科学など他分野を排除するものではありません。例えば、職場の仲間が演奏の舞台に立つ、その仲間の活躍を応援することによる応援者と被応援者とのつながりが生まれる、と同時に、同じ仲間を応援する者同士のつながりもそこで生まれる・・・演奏会を媒介とするこうしたつながりがそれぞれの「健康」にもつながっていくと考えます。こうしたイベントの応援(「観劇」補助)も従来通り積極的に行います。

⑥連合体及び他の単体との連携強化

学長及び理事会の権限が強化される中、労働条件の改善を実現させていくためには連合体との連携を密にし協同して取り組むことがかかせません。繰り返しになりますが、連合体からの意見集約が求められた時には、できる限り多くの教育学部教職員の声を集め、必要であれば連合体での議題にそれらの声を取り上げてもらうことに努めます。

⑦教員のメンタルヘルス・人権相談

「健康・スポーツ」をテーマに、文化・レク活動を核にした取り組みを地道に積み重ねる中で、教員のメンタルヘルスの向上に少しでも貢献できればと思います。